

# 仲間と親とあゆみ続けて

## 32年間の障害者福祉実践

### 第4回 重度の知的障害のある仲間たちと関係を築く

1994年、大阪から名古屋市に戻り、ゆたか福祉会に再就職しました。翌年から障害の重い仲間たちが働く「あかつき共同作業所」に10年間勤めました。その間に全障研愛知支部の事務局員になり、愛知の障害者運動に関わりながら実践について考えてきました。重い知的障害と自閉スペクトラム症を併せもつ仲間が多く、当時『みんなのねがい』で連載されていた別府哲先生の「障害をもつ子どもの内面世界をさぐる」の連載が実践の支えになっていて、「仲間たちのことがよく夢に出てくる」そんな時期でした。

#### 杉本さんのこと

回収した空き缶をアルミとスチールに分け、缶つぶし機に入れて、つぶして、納品をする。その缶つぶし現場に、最重度の知的障害をもつ杉本さんと、知的障害と自閉スペクトラム症を併せもつ伊藤さんがいました。

私たちは悩んでいました。その頃、南部地域療育センターそよ風の方に発達検査をしてもらえることになりました。そこで発達課題となる達成感をもつために、物を運ぶ作業でスタートとゴールに箱の台を置いて、本人が見通しをもちやすくしてはどうかというアドバイスをもらいました。職員集団で話し合い、私たちは台を2つ用意してスタートとゴールを明確にし、杉本さんが自分で目的地まで運べたらほめることを繰り返していきました。また、朝の会ではホワイトボードの納品の欄（車の絵が貼ってある）に杉本さんのマグネットを貼って声かけをし、缶の入ったカゴをいっしょに車まで運んだら、納品に行く（〇〇したら、□□をする）という体験を繰り返すことで定着していきました。

数カ月後、杉本さんは職員（他者）の声かけをしっかりと意識して、期待通りになると全身で踊って喜びを表現してくれるようになりました。

「1歳半前後の発達課題をもつ仲間たちに、労働をどう保障していけばいいのか」その後の実践現場でもずっと考えている課題です。広い意味での労働は、目的意識をもって物事に働きかけることを言います。杉本さんが「今日は車に乗って納品に行きます」という職員の声かけを受けて、自らアルミ缶の入ったカゴを職員といっしょに運んで、納品に行くという経験を繰り返すなかで、次の見通しをもってカゴを運ぶ労働の主人公になっていったのだと思います。仲間もっている力を最大限に生かしながら自ら発達の主人公になっていく過程を、粘り強く働きかけ、ちよっとした変化も見逃さ

杉本さんは、仕事に興味をもつことができず、敷地内の草を取ってきては寝転んで草をさわって過ごすということが日課でした。「他の作業所では最重度の知的障害をもつこの子に入れてもらえなくて、自分たちで共同作業所をつくったのよ」と語っていたのは杉本さんのお母さんでした。無認可で作業所を運営していた頃は補助金がもらえなくて、職員の給料は廃品回収でまかなわざるを得ず、そのため仲間の作業保障がなかなかできなかったと聞きました。

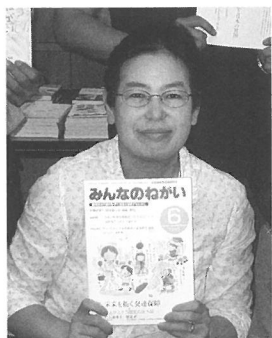
一方で、作業をただ与えるのでは労働の喜びにはつながらないのでは——そう考えて、まず、本人の好きなことをじっくり観察することからはじめてみました。すると、杉本さんは草をさわる以外にも、車に乗ってアルミ業者に缶の納品に行く時にとてもうれしそうな顔をしていることがわかってきました。

でも、車に乗ることが楽しいだけなのかもしれない…。私ずに職員集団で共有しながら実践を積み重ねていく。最重度の知的障害の仲間への実践の基礎を学ばせてもらった時期でした。

1998年、名古屋から車で1時間半の設楽町にある「第2ゆたか希望の家」が開所することになりました。「鉄格子のある入所施設には絶対に入れさせたくない」と言っていた杉本さんのお母さんは入所施設検討委員会に参加しながら、全室個室・小舎制の第2ゆたか希望の家の入所を決意しました。開所当時、設楽町の入所施設まで引き継ぎに行き、ゆたかな自然環境の中での生活にすっかりなじんでいる杉本さんの姿を見て、とつても安心したことを覚えています。あれから23年経った2021年、設楽町に行った際も楽しく散歩をしている杉本さんの姿を見かけ、とても安心しました。

#### 伊藤さんのこと

もう一人、知的障害と自閉症を併せもつ伊藤さんは、県立養護学校卒業後に作業所に入りましたが、他害行為があり、周りの仲間や職員からこわがられる存在でした。発達検査を受けると、認知面の力と言語面の力のアンバランスさが指摘されました。いろいろなことがわかる力はあっても、次の見通しがもてず、職員がきびしく指導をするような雰囲気の中で、暑かったり、湿度が高かったり、気候や環境の変化に弱い特徴があり、自分の思いがうまく伝えられない時にパニックを起こしていました。



ゆたか希望の家相談支援事業所

佐藤さと子

さとう さとこ / 日本福祉大学卒業後、社会福祉法人ゆたか福祉会に勤める。全障研愛知支部事務局長